

まあるい瞳で…～おめめどうから幼児期へのお手伝い～

<幼児期へのお手伝い2>

2、スケジュールで見通し(いつなにがあるの?)をたてる その2

毎日のスケジュールを伝えてみよう

最初は

- 1、起きてから、園に行くまで
- 2、園での生活
- 3、園から帰ってから寝るまで。

の三つの場面に分けるといいかもしれません。

続けるうちに、朝に帰宅後の予定を伝えたりもしていくと一日のスケジュールになっていくわけです。

これは、毎日のことですから、通常のおときは意味があるのかしら?と思われるかもしれませんが、通常時に伝えることで変更がある時に変化を知らせることができます。

「いつも」を伝えておくと、変更があってもそれを受け入れてくれるようになるので、必ず「いつも」伝えます。

伝えるために、お子さんのわかるもの(実物、写真、絵カード、文字…なんでもいいです)まずそれを貯めておきましょう

園でのだいたいの生活の例としては

- 1、朝の会
- 2、リズム体操
- 3、工作
- 4、給食
- 5、お昼寝
- 6、自由遊び
- 7、終わりの会
- 8、園バスで帰る

本人が見ていないようでも、外さないようにしないでください。きっと頼りにされる日がきます。

その日のスケジュールを伝える事と伝えないでいる事は、ずいぶん違いますので毎日やってみてください。

また、場所を移動する時も、なかなか分かってくれないときは、「遊戯室に行くよ」などの声かけはせずに、ヒントになる実物や写真、絵を見せて促します。

また、ゆり組(おもちゃ)→遊戯室(ダンス)→ゆり組(おもちゃ)…

という風に連続して伝えることで、その場所にいつ戻ってくるかわかるようにしましょう。

●●● スケジュールをたてるということは ●●●

スケジュール・プログラムなどで、見通しを持って暮らす。時間をタイマーや時計といった見える形にする…

これは、一生涯に渡る基本的な対応です。

ただ、まだ時間の感覚も曖昧な幼児期ですので、お子さんがしたいことは

終わりはいつかを先に伝えておいたり(または選んでもらっておいたり)、次に行う活動を見せておくなどをしながら焦らず気長に気が済むまでしてもらおうことです。

途中でやめさせられたというより、お子さんが自分からやめた、次へ移ったという感覚こそが大事なのです。

好きなことを邪魔されなかった記憶と自分で終わったという実感があれば、後々に自分でキリをつけるようになっていきます。

運動会や学芸会、遠足、旅行などの行事も必ず次は何が起こるかを提示、スケジュール(計画)をする、プログラムを作る、行程を伝えるといった「見える形での見通し」をします。

どこから?と迷ったら、本人のルーティンになっているところを視覚化していきましょう。

また、外出時は、体の物理的移動があるので伝わりやすいですよ。

by ハルヤンネ